

## 学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成27年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立坂戸高等学校		Aグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見	
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	普通科、外国語科設置の学校としての趣旨や特性を踏まえ、学校としての目指す方向が簡潔かつ的確に示された学校像である。学校の置かれた状況や課題をより広く把握・分析した上で、学校の特色や強みを生かしたものとして工夫できると更に良い。	
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	地域の期待、生徒の学力や進路の実態を踏まえた重点目標が設定されている。学校内外の環境分析などを十分に行い、中期的視点から、更に検討・整理して目標の重点化を進めることが望まれる。	
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	学校全体のシートに基づいて分掌・学年等のシートが作成されるなど、重点目標達成のための取組が進められている。分掌・学年間の一層の連携を図り、より具体的な評価項目や方策について検討・策定するように体制を整備するとともに、学校自己評価システムの理解を深め、教職員全体の参画を促していただきたい。	
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	学校全体のシートに基づいた方策が分掌・学年等で策定されている。全体と分掌・学年等のシートの連鎖を一層図るとともに、評価指標については、取組指標と成果指標をうまく組み合わせで分かりやすい評価指標を設定することが望まれる。	
	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	校長は、学校の現状を分析するとともに、様々なエビデンス（根拠データ）を用いて学校経営の方針を教職員に示すなど、その浸透に精力的に取り組んでいる。校長が的確にリーダーシップを発揮して課題解決の方向性を示しており、その達成に向けて教職員全体で組織的な取組が展開されている。	
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	学校関係者の意見やアンケート結果を教職員に示し、達成状況や課題の共通理解を図っている。学校自己評価システムを有効に活用し、前年度の課題を次年度の目標・方策に具体的に生かせるようにPDCAのスパイラルアップを進め、学校の良いところを更に伸ばしていただきたい。	
特記事項			